

調査団体名	日本カメ自然誌研究会	団体代表者名	矢部隆
活動地域	東海地方(調査活動)中心	団体URL	なし
<p>&lt;活動内容&gt;</p> <p>自然に生息するカメについて知る活動を展開し、保護すべき場合は提言を行っている。また、啓蒙活動として勉強会や研究会も開催している。カメについての現地調査については東海地方を中心に行っているが、会議や他団体との交流は全国的に展開している。また、毎年主催している「日本カメ会議」は、2007年は東邦大学の協力を得て東京で開催、2008年は碧南海浜水族館の協力で愛知県開催、2009年は千葉県で開催予定である。</p> <p>また、岡崎市からの依頼で、ため池に生息する爬虫類、両生類の調査を実施した。2009年度は名古屋市からCOP10に向けて、同様の要請を受けている。</p>			
<p>&lt;連携している団体・専門家・自治体など&gt;</p> <p>全国的なものとしてはウミガメ協議会、大阪の和亀保護の会、その他、大学研究機関、水族館など。地元では矢部川流域圏で活動する環境団体と関わりがある。</p> <p>指導や助言をする立場として、地域、ジャンル、ともに幅広く連携している。</p>			
<p>&lt;今までに行った調査・研究&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○岡崎市、名古屋市のレッドリスト作成のための現状調査</li> <li>○豊田市史・自然編作成のための調査・研究</li> <li>○データなどについては愛知学泉大学矢部研究室内</li> </ul>			
<p>&lt;現在直面している課題&gt;</p> <p>日本を含むアジア圏では淡水カメに対する認識度が低く、カメを保護する施設が皆無である。カメは一部マニアのペットという捉え方が主流で、自然の中に生息しているカメへの関心も低い。そのために、在来種のイシガメについては、場所によっては絶滅の危機に瀕しているにも関わらず、なんら対策が打たれていない。</p>			
<p>&lt;今後どんな情報が必要か&gt;</p> <p>日本カメ自然誌研究会では、設立以来およそ10年間蓄積した膨大な情報があるが、それをどこへ発信すればいいのかわからない。</p>			



2008年8月9日 子どもたちとカメ調査



カメの説明を聞く学生



減少が著しいニホンイシガメ